

久住山・阿蘇山登山記

記録 勝沼 正敬

7月11日。熊本空港では雨が降っていた。昼食後、廣井さんの用意してくれた車2台に分乗して出発した。まずは、戸田さんの冥福を祈るため阿蘇神社近くにある極楽寺に向かい、本堂前で手を合わせる。この山行は、そもそも戸田さんが選んだ最後の山行を辿り偲ぶために計画されたものであったのだ。



「やまなみハイウェイ」に入ると、緑のグラデーションの中を次の目的地「八丁原（地熱）発電所」へ。発電所の内容については省くが、その説明の中で印象に残ったのは、自然のエネルギーを大切に長く使うために発電機はこれ以上増やさない、ということ。



見学を終えて、今夜の宿のある長者原へ。木立の中に立つコスモス荘に到着。茶色く濁った温泉で汗を流せばあとは楽しい夕食の時間で、そこにはビールと酒がつきもの。それでも明日の山行のためにほどほど(?)にして就寝した。



7月12日。宿から徒歩5分程のバス停へ。8時30分発のバスに乗って、着いた牧ノ戸峠は深い霧に包まれていたが、集合写真を撮って歩き始める。



深い霧も時々切れ目を見せて、瞬間、目を楽しませてくれる。道はガレ場であるが意外と歩きやすく、ペースもゆっくりで息も心臓も足も快調だ。久住山頂1,786mは霧の中で眺望はなく、記念撮影と小休止。



少し下って中岳へと向かうと小さい池が現れた。この御池を半分巻くように辿ると、中岳への登りになる。中岳山頂(1,791m)も霧の中。しかも風が強い。昼食をどこで摂るか問題になったが、昼食の間に晴れるかもしれないという希望を持って、風下側に腰をおろして宿特製の弁当を開けば、期待した通りに霧が強い風に吹き飛ばされて、遥か眼下の坊ガツルを見せてくれた。



そこからは法華院温泉・坊ガツルへひたすら下る道。途中、今にも崩落しそうな場所もあったが無事、そして快調に法華院温泉に着く。

そこで冷たいビールで喉を潤す輩が幾人か。坊ガツルを望む斜面で小休止した時には「坊ガツル賛歌」を歌い何十年分若返った気分浸った。



そこからは「九州自然歩道」のよく整備されてアップダウンもあまりない道を、雨ヶ池を經由して長者原へ。再び車に乗って今夜の宿へ。その宿へはなんと、2〜3分走っただけで到着。これは山から下りたらなるべく早くに汗を流させようとの、この旅をコーディネートしてくれた廣井さんの計らいか。夕食時のビールや酒、賑やかさは例の通りにて省略。特記事項は、梶山さんが腹部手術後3週間しか経っていないのに歩き通すことができたことで、快気祝いの乾杯をしたこと。



7月13日。ホテルの朝食7時半に合わせて起床。朝食、諸々の作業を終えて出発した。阿蘇の高岳・中岳へ。仙酔峡ロープウェイ乗り場では、風が強いので運休になるかもしれないということで、片道しか販売してくれなかった。下では感じなかった風が、ロープウェイ上部の火口東駅を降りて歩きだすと飛ばされそうに強い。



阿蘇の火口を望む展望台に着き南寄りの強い風の中から中岳への馬の背状の道を見ると、あえて危険を冒すことは避けようと全員で断念し、霧が晴れて見晴らせるようになった周囲の景色を見て、ロープウェイを使わずに歩いて下山（その後の天候の状況ではたぶん無事にコースを歩き通せたとも思われるが、あの時の判断は正しかったと、帰宅した後の山岳事故のニュースを見て思った）。



予定にはなかった草千里の中のドライブウェイを火口西へ車で向かい、今も噴煙を上げる火口を見下ろし、火口湖に溜まる水の色に感動して空港へ。一行10名のうち石附さん・川澄さんの2名が帰るのを駐車場で見送る。残り8名は空港近くの温泉施設でゆっくり汗を流し、宿に向かう。

先行の車は廣井さん、後ろを走る車は阪西さんの運転で助手席が筆者。今夜の宿は泊まるだけで夕食は外に食べに行くことになっている。しかし、市街地からどんどん郊外に出て田舎に入っていく。運転中の阪西さんは「廣井さんの家のほうに向かっている」としきりに言うが、こんな田舎に旅館はともかく、食事ができる店などあるのだろうか全員訝しんでいた。旅館に着くと、廣井さんは車で家に帰るとか。我々は旅館の車でひとまず廣井さんの家まで送られて、廣井さんも同乗して食事に行くものと思っていた。奥様に挨拶だけはしよう全員が車を降りると、奥様はどうぞお入りくださいとおっしゃる。我々は遠慮ではなく、すぐにでも食事の場所に行きたいものだから上がらずにいるが、どうしてもと言われてそれでは少しだけと靴を脱いでお座敷に上がったところが、そこにはテーブルいっぱい豪華な食事が並んでいたのである。



我々は一人としてこのようなことは予想もしておらず、廣井さんにまんまと一杯食わされたと思いながらも遠慮せず、一杯どころかたらふく飲んだり食べたり、話したり歌ったり、楽しいひと時を過ごさせていただいた。廣井さん、奥さん、ありがとうございます。そして、食べきれずにたくさん残してしまいまして、申し訳ありませんでした。



7月14日。8時には、廣井さんが迎えに来ることになっている。出かける準備を終えて朝食。最初は宮本武蔵の絵や書、資料を集めた「島田美術館」へ。この日は休館日だけれど開けて貰ってあるという。島田館長が、宮本武蔵が細川忠利に招かれたいきさつや熊本における生活などについて説明して下さった。



熊本城は、天守閣と新築なった本丸御殿、創建当時の宇土櫓を見学したが、今、パンフレットを改めて見ると見逃した場所のなんと多いことか。もっと時間が欲しかったと思ったことである。



次に夏目漱石が数年住んだという旧居を訪ねた。敷地は1,434㎡、建物は232㎡と書かれている。平屋で庭も広くて住みよさそうな家であった。周囲は今も閑静な住宅街であったが、すぐ隣に幼稚園か保育園があつて、

賑やかな声かしていた。



最後の見学場所はサントリーの工場。試飲もあるのでというので全員が楽しみにしているのだが、運転手は飲むことができない。廣井さんには申し訳ないが自宅へ帰らないといけなし、もう1台を誰が空港まで運転するか。じゃんけんで決めようかと言っていたところ、ここは星さんが犠牲になってくれた。



廣井さん、星さん、どうもありがとう。工場見学といっても巨大なタンクやパイプラインがあるだけで、実際その中で水や麦芽やホップがどうなっていくのか、説明だけではよくわからなかった。その後、敷地内にあるレストランで昼食を食べたが、試飲会場で3杯も飲んできたから誰もそこではビールを注文しなかったのが面白い。



熊本空港で廣井さんにお礼を言って別れ、売店でそれぞれ家へのお土産を買って機上の人となり、羽田空港で別れ楽しい旅が終わった。

○参加者（あいうえお順）

大嶋 實・梶山 實・勝沼正敬・川村吾一・櫻井 明・
廣井 均・星 富夫・阪西 保
石附正雄 (LMC)・川澄 昂 (E38・LMC)